

令和2年度第1回鹿児島市交通事業経営審議会

日時	令和2年6月10日(水) 14:30~15:55	会場	交通局3階 第2会議室
出席者	古川会長、小山委員(副会長)、上川路委員、江口委員、碓山委員、石田委員、塩川委員、岩崎委員、金子委員(9名)		
市出席者	交通事業管理者、交通局次長、総合企画課長、総務課長、経理課長、電車事業課長、バス事業課長		
会次第	1 開会 2 局人事異動紹介 3 交通局長の挨拶 4 議事 (1) 第二次鹿児島市交通事業経営健全化計画の実施状況 (2) 令和2年度鹿児島市交通事業特別会計予算の概要 5 報告 (1) 自動車運送事業の抜本的見直しの進捗状況 (2) 新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る局の取組 6 その他 7 閉会		

会次第4-(1) 第二次鹿児島市交通事業経営健全化計画の実施状況

発言者等	協議事項・質疑・回答等
委員	新たな定期券制度等の創設における目標効果額の達成状況が良好だが、料金改定の他に、市電の定期乗車券の全線化による利用者の増加等も要因として考えられるのか。
事務局	市電の定期乗車券の全線化に伴い、定期乗車券の需要が増加したと考えており、このことも増収の一因と考えている。
委員	第二次経営健全化計画に掲げた施策については、全てに取り組み、完了した項目もあったが、3年間を総括してどのように評価しているか。
事務局	第二次経営計画の目標は、「本市交通事業が将来にわたり持続可能となるよう、抜本的な事業見直しの方策検討と可能な限りの経営改善に取り組む」ことであり、自動車運送事業の抜本的見直しによる一部路線の民間事業者への移譲を実現し、今後の事業継続の道筋をつけることができたことから、この計画の大きな目標は達成できたと考えている。また、資金残高の計画値との比較等からも、経営改善に一定の効果があったものと考えている。
委員	北営業所と桜島営業所の路線運行については、南国交通株式会社に管理の受委託を行っているが、これによりどの程度の効果があつたとみているか。
事務局	管理の受委託により、コスト削減効果が期待されるが、令和元年度においては、6千万円から7千万円ほどの経費削減の効果があつた。
委員	ここ数年は重大事故も発生している。電車、バス、それぞれ、どのような対策、研修会等を実施したか。
事務局	自動車運送事業においては、全乗務員を対象として、ドライブレコーダーを活用した研修を年4回実施し、安全運転や接遇マナーについての意識改革を図ったほか、公営交通事業協会等が主催する研修に乗務員を派遣した。
事務局	軌道事業においては、全乗務員を対象として、同じくドライブレコーダーを活用した研修を年3回実施し、安全意識の向上や危機管理に関する情報共有を図っている。

発言者等	協議事項・質疑・回答等
委員	健康診断結果が要治療等である者の健康相談への参加率が100%ではないが、その要因として考えられるものは何か。安全運行との観点から、参加率の増加は重要と考えられる。
事務局	相談は毎月、場所も変えながら開催しているが、乗務員の勤務体制が不規則であることも影響している。引き続き、所属長からの声かけを行う等、参加率増加のために工夫したい。

会次第4-(2) 令和2年度鹿児島市交通事業特別会計予算の概要

発言者等	協議事項・質疑・回答等
委員	センターポール照明LED化事業の工事の進捗状況を確認したい。
事務局	工事は令和2年度に着手し、令和6年度まで5年間かけて実施していく。令和2年度は、桜島棧橋から高見馬場までを施工する予定である。
委員	武之橋変電所は文化財であるが、き電線更新事業の鉄塔の更新は、撤去・新設するものか。
事務局	鉄塔については、補修を行う。

会次第5-(1) 自動車運送事業の抜本的見直しの進捗状況

発言者等	協議事項・質疑・回答等
委員	職員の処遇に関しては、職員の意向調査や民間企業の説明会を実施したとのことであったが、市役所への異動や民間への就職は、実際、何人いたのか。
事務局	市長事務局へ出向した者が10名、局内の配置換による異動が3名、その他移譲先の民間事業者へ就職した者が1名いた。
委員	資産等の取り扱いに関連して、バス停へのベンチの新設等は考えていないのか。
事務局	設置する場合、上屋と合わせて整備することになる。年間数件の要望を受けているが、道路幅等の設置の条件があり、その条件をクリアしなければならないほか、利用者数も加味して検討しなければならないが、現在のところ、新設の予定はない。
委員	移譲した路線の経路や便数は、原則3年間維持することとなっているが、移譲後に変更された路線はないか。
事務局	利便性の向上や運行の効率化、その他特別な事情が生じた場合には、協議のうえ変更を認めることができる旨、協定書に記載しており、紫原線における鴨池港までの延伸や一部便のオプシア経由、武岡台高校線における増便や3号線へのバス停新設等、利便性向上につながる見直しは認めたところである。

会次第5-(2) 新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る局の取組

発言者等	協議事項・質疑・回答等
委員	3月以降は新型コロナウイルス感染症で学校の一斉休校等もあり、経営に与える影響も相当あったと思われるが、乗客数や収入はどのような状況か。

発言者等	協議事項・質疑・回答等
事務局	3月については、前年同月比で電車・バスともに、乗車人員は2割減、運賃収入ではどちらも2千万円ほど減少した。また、4月については、電車は乗車人員が5割減、運賃収入が6千8百万円の減、バスは乗車人員が4割減、運賃収入が4千4百万円の減であった。
委員	コロナ収束後の回復に向けて、どのような対策を考えているか。
事務局	減収分を回復する得策はないが、国体おもてなしラピカの発売、バス経路検索データの整備、情報発信のためのtwitter開設、一日乗車券の電子化、新たなクライアントを開拓することによる広告収入の拡大、局に残った路線の調査による運行の効率化等、小さなことからでも増収対策を実施し、できる限りの経費削減に取り組むことで、収支改善を図りたいと考えている。
委員	国体の開催も危ぶまれているが、国体おもてなしラピカは発売する予定なのか。
事務局	国体おもてなしラピカは、選手や関係者をターゲットとした国体バージョンのデザインと、観光客をターゲットとした観光バージョンのデザインを作成する予定であり、国体が予定通りに開催できなかったとしても、観光バージョンについては発売する予定である。
委員	降灰や暑さから、車内の窓が開放できない状況も想定され、利用者やその家族が不安に感じているのではないかと心配されるが、通勤通学の混雑時の密対策としてどのようなことが考えられるか。その対策はどのように周知しているか。また、車内換気を実施されているようだが、換気により感染リスクが軽減されることの科学的根拠や数値化などの「安全性の見える化」の方法はあるか。
事務局	特に、朝の通勤・通学ラッシュ時においては、3密のうち、密集・密接を回避することは難しいため、密閉だけは避けるべく、各停留場・停留所での乗降口の開閉や車窓の開放により空気の入替えを図っているところであり、車内換気については、乗務員によるアナウンス及び車内へのポスター掲出により周知を行っている。換気による効果として、折り返し運行を行うまでの数分間、乗降口や運転席横の窓を開放することにより、一定の効果があるものと考えている。
委員	電車・バスの消毒作業は、1日1回とのことだが、朝夕のラッシュ後など回数を増やすことはできないのか。
事務局	一日中運行している車両もあり、運行の途中で消毒・清掃作業を行うことは難しいことから、運行終了後に作業を行っているところである。
委員	消毒を行っている箇所について、資料では「つり革等」と表記されているが、「等」の内容まで明らかにしたほうが、利用者も安心できると思われる。また、局が行っている新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について、ホームページやfacebook、twitterだけでなく、「市民のひろば」も活用して広報することで、幅広い年代で安心して利用いただけるのではないかと。
事務局	消毒作業では、つり革のほかに、手すりや降車ボタン、両替機、窓枠等、乗客が触れることが想定されるものについては消毒している。感染症拡大防止対策について、ホームページのトップページで広報しているところであるが、さらなる広報の手段について検討したい。

発言者等	協議事項・質疑・回答等
委員	審議会の答申の中で、「民間との協議ではノンステップバス等の導入を促すこと」を要望していたが、どうなったか。
事務局	民間事業者との協議の中で、ノンステップバスの運行に関するダイヤ等のデータを局から民間事業者へ提供し、移譲する路線へのノンステップバスの導入をお願いした。南国交通株式会社においては運行する全ての路線に低床バスを導入したと聞いており、吉野方面の急こう配の区間を除いて車いすでの乗降が可能となっている。鹿児島交通株式会社が運行するバスについては、低床バスを5台追加導入しており、ハートピア線や唐湊線では低床バスを運行させることとしている。また、車いすのまま3台同時に乗車できる車両も導入している。
委員	車いすのまま3台同時に乗車できる車両は、実際に利用しており、車いすの友人同士で乗車できるため大変ありがたい。その一方で、市役所前で乗車されようとした車いすの方が、車高が高かったために一人で乗車できず、数人がかりで乗車のお手伝いをしていた場面を見た。その際に、バスの車体が傾けられていないようであったが、運転手の手助けや車体を傾けることはできないものなのか。
事務局	運転手は、運転席を離れて手助けしたり、車体を傾けて車高を下げる等の対応をすることとしている。もし、気づいていないようであれば、運転手にお声がけいただきたい。